

ウド(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	黒斑病	白絹病	菌核病	疫病	アブラムシ類	ウドノメイガ	ヨトウムシ	ヒメシロコブゾウムシ	センノカミキリ	シクラメンホコリダニ
ドイツボルドーA水	M1		*a	-	◎									
ベンレート水	1		*j	1			◎							
ロブラール水	2		*g	3	◎									
			*h	1			◎							
リゾレックス水	14		45	2		◎								
リゾレックス粉	14		*f	1		◎								
ダコニール1000FL	M5		*b	3	◎									
フォリオゴールドFL	4・M5		*n	1				◎						
バイオリサ・カミキリ	-		*d	-									◎	
カルホス粉	1B		*e	5									◎	
スミチオン乳	1B		*m	4				◎	◎	◎	◎	◎	◎	
トレボン乳	3A		*i	2				◎						
トレボンEW	3A		*i	2				◎						
アドマイヤーFL	4A	劇	*L	3				◎						
コテツFL	13	劇	*k	2										◎

*a:根株養成期 *b:根株養成期(但し収穫200日前まで)
 *d:成虫発生初期 *e:成虫飛来初期～盛期 *f:根株養成畑定植前
 *g:根株養成期(但し収穫50日前まで) *h:伏込時(但し収穫21日前まで)
 *i:根株養成期(但し収穫45日前まで) *j:定植前
 *k:根株養成期(但し収穫75日前まで) *L:根株養成期(但し収穫60日前まで)
 *m:根株養成期(但し収穫150日前まで) *n:伏込時(但し収穫25日前まで)

ウ
ド

ウド(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
萎凋病	根株養成期	<ol style="list-style-type: none"> 連作を避け、無病畑で栽培する。 根株養成畑では、土壤消毒を行う(土壤消毒の項参照)。 根株養成用の苗は無病のものを選り、定植する。 発病株を早期発見し除去する。 	萎凋病の病原菌はパーティシリウム菌でナス、トマト、イチゴ、オクラ、フキ、キク等各作物を侵す。 近年、本病に類似した症状で、フザリウム菌による「萎黄病」の発生も増加している。
	軟化前	・軟化用根株は無病のものを厳選する。	
菌核病	種株冷蔵保存前	・種株を次の薬剤に30分間浸漬する。 ベンレート水和剤 500倍	軟化用根株の冷蔵中や軟化中に発生が多く、根株養成畑では少ない。
	軟化前	<ol style="list-style-type: none"> 軟化根株は無病のものを厳選する。 発病株を早期発見し除去する。その際、病原菌の菌核を残さないように注意する。 	
	伏込時	・次の薬剤を灌注する。 ロブラル水和剤 1000倍 6ℓ/㎡	
白絹病	根株養成期	<ol style="list-style-type: none"> 連作を避け、無病畑で栽培する。 次の薬剤を粉衣する。 リゾレックス粉剤 3g/株 発病株を早期発見し除去する。 次の薬剤を散布する。 リゾレックス水和剤 1000倍 	根株養成畑では、夏季の高温時や排水不良畑で発生が多い。 軟化栽培でも発生する。
	軟化前	・軟化根株は無病のものを厳選する。	
疫病	軟化前	<ol style="list-style-type: none"> 軟化根株は無病のものを厳選する。 発生芽土は更新する。 伏込時に根株を次の薬剤に瞬間浸漬する。 フォリオゴールド(FL) 800倍 	抑制軟化栽培で被害が大きい。軟化茎基部より激しく褐変腐敗する。
黒斑病	根株養成期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ダコニール1000(FL) 1000倍 ドイツボルドーA(水) 500倍	
アブラムシ類	根株養成期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 スミチオン乳剤 1000倍 トレボン乳剤 1000倍	
センノカミキリ	株分け時	・幼虫をとりだし捕殺する。	# 使用時期は根株養成期での登録
	成虫発生期(6~8月)	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 カルホス粉剤 6kg/10a スミチオン乳剤# 1000倍	
センチュウ類	植付前	・作付予定地で、前年作に寄生があったところでは土壤消毒する(土壤消毒の項参照)。	
その他の病害虫		萎黄病、褐紋病	

ウ

ド